

令和6年度全国学力・学習状況調査結果について
～滝川市立小学校、中学校の学力の状況等～

滝川市教育委員会
(担当：教育総務課)

1 調査の概要

- (1) 実施期日 令和6年4月18日(木)
- (2) 調査の対象学年
・小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- (3) 調査の内容
①教科に関する調査(国語、算数・数学)
小学校(国語：14問、算数：16問)
中学校(国語：15問、数学：16問)
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- (4) 参加状況(悉皆調査)
小学校6校 中学校3校
- (5) 参加児童生徒数(下表)

小学校第6学年	学 校	対象児童数	受験者数	未受験数	中学校第3学年	学 校	対象生徒数	受験者数	未受験数
	滝川第一小	29	28	1		江陵中	102	94	8
	滝川第二小	48	45	3		明苑中	138	129	9
	滝川第三小	45	42	3		開西中	44	44	0
	西小	40	38	2					
	江部乙小	5	3	2					
	東小	64	63	1					
	計	231	219	12		計	284	267	17
	参加率	94. 8%				参加率	94. 0%		

2 教科に関する調査の結果

全国・全道の平均正答率に対し、本市の児童生徒の平均正答率を
上回っている(5%以上)、やや上回っている(3%以上5%未満)、
同程度(上位)(1%以上3%未満)、同程度(±1%未満)、同程度(下位)(-3%より上-1%以下)
やや下回っている(-5%より上-3%以下)、下回っている(-5%以下) で示した。

(1) 小学校

①【国語】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（67.7%）、全道の平均正答率（67%）を下回っている。

②【算数】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（63.4%）を下回り、全道の平均正答率（61%）をやや下回っている。

(2) 中学校

①【国語】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（58.1%）、全道の平均正答率（58%）をやや下回っている。

②【数学】

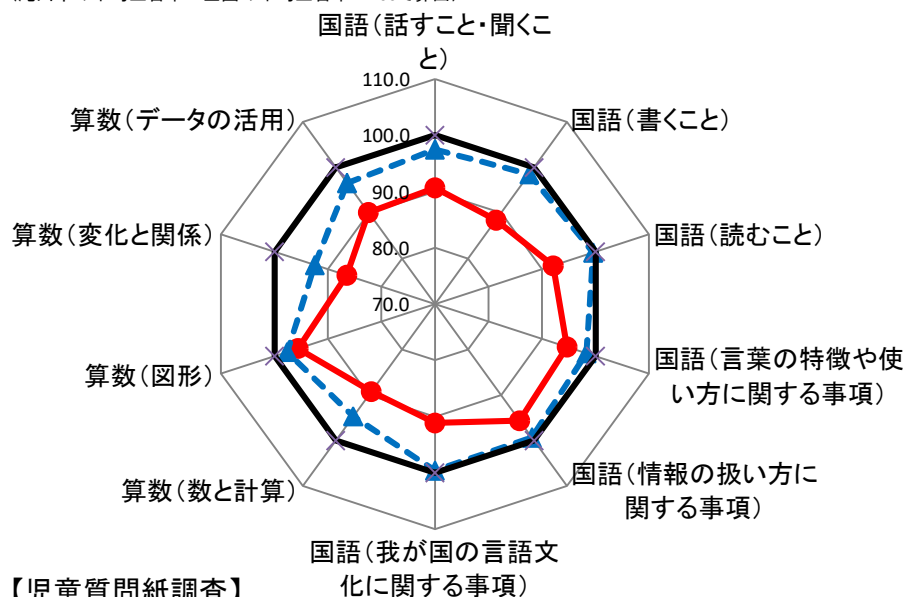
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率（52.5%）、全道の平均正答率（51%）をやや下回っている。

※文部科学省の発表に基づき、全国の平均正答率は小数第1位まで、全道の平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示す。

3 滝川市立小学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：6校、児童数：231名）

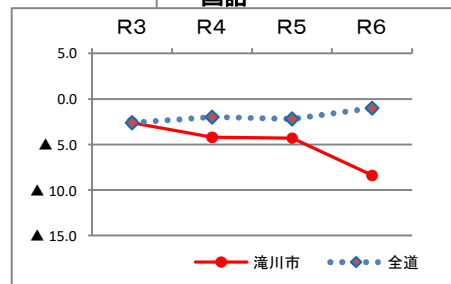
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したものの（滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）

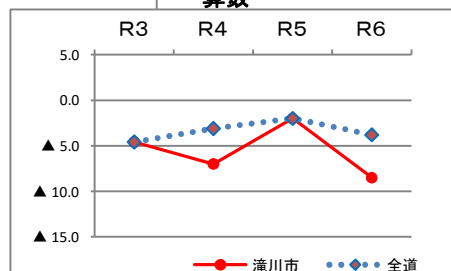


※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したものの。令和2年度の調査は中止。

国語

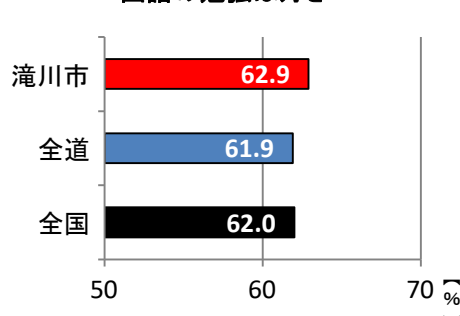


算数

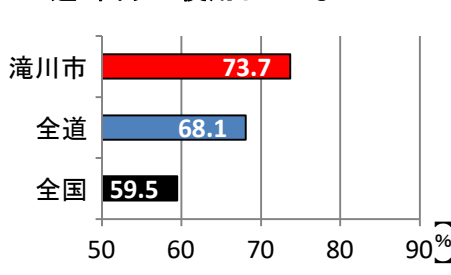


【児童質問紙調査】

国語の勉強は好き

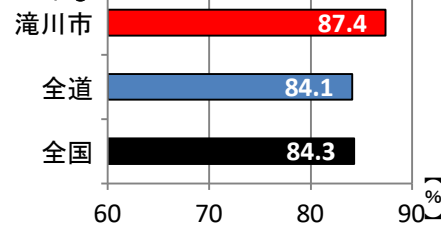


PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している

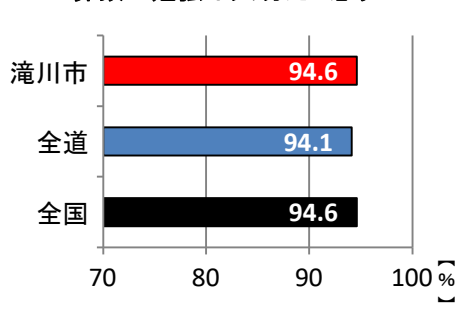


【個別最適な学び】

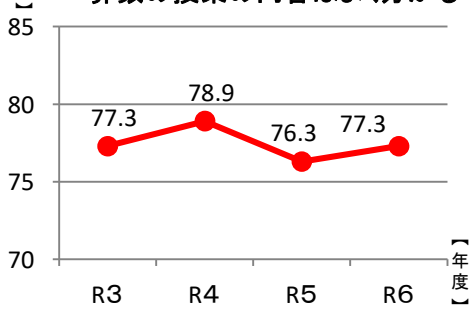
5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている



算数の勉強は大切だと思う

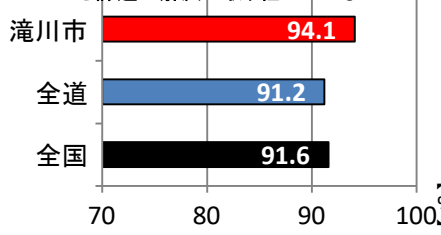


算数の授業の内容はよく分かる



【協働的な学び】

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる



【分析】

教科	平均正答率において、国語は全国・全道を下回り、算数は全国を下回り、全道をやや下回った。領域別に見ると、算数の「図形」は、全道の平均正答率と同程度だったものの、国語、算数ともに全て分野において全国・全道の平均正答率を下回った。国語の「書くこと」は全国・全道との差が最も大きいことから、指導内容の分析を含めた改善が求められる。	学校は、児童の姿や地域の現状等に基づき、教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立させた。また、児童の学習状況や課題を全教職員で共有し、学力向上プランの見直しを図りながら、組織的に授業改善に取り組んできた。引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、児童が自らの学びの変容を見取り、自らの学びの高まりを自覚できるようにすることが大切である。
児童質問紙	「国語の勉強は好き」と回答した割合は、全国・全道の平均を上回っている。また、「算数の勉強が大切だと思う」と回答した割合は、全国と同程度で、全道の平均を上回っている。これらのことは、児童の良い点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにした成果と考えられる。「PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」と回答した割合は、全国・全道の平均を大きく上回っており、学校教育の質の向上に向けたICTの活用が各学校で進められていることがわかる。「個別最適な学び」「協働的な学び」に関する項目への肯定的な回答が全国・全道の平均を上回っていることから、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が各学校で進められていると思われる。	
学校質問紙	すべての学校において「指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」と回答した。	

【滝川市の学力向上策】

- 児童一人ひとりの理解度に応じて出題される「AIDリル」を活用し、個別最適な学びを一層充実させ、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化に取り組んでいる。
- 個に応じた学びの支援のため、「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している。
- チーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、一人一人の児童が抱える学習のつまずきの解消や発展的な学習の充実に取り組んでいる。
- 各学校において家庭学習の手引を作成・活用し、望ましい家庭学習の定着に向けた取組を各家庭と連携して推進している。
- 放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補充的・発展的な学習に取り組ませるとともに、児童の家庭学習への意欲化・定着化を図っている。
- 新しいかたちの学びの授業力向上推進事業を活用した学校間の取組を市内のすべての小学校に発信し、積極的な授業改善を推進している。
- 1人1台端末などのICT機器を効果的に活用するため、教職員研修会を実施し、質の高い授業を目指した授業改善を推進している。

4 滝川市立小学校の学習状況及び改善策（学校数：6校、児童数：231名）

自分にはよいところがあると

思う

【自尊感情及び規範意識等全体の状況】

各児童質問紙項目別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの

（滝川市の該当割合÷全国の該当割合×100で算出）

※該当割合＝「当てはまる」割合＋「どちらかといえば当てはまる」割合

普段の生活の中で、幸せな気持ちになる

将来の夢や目標を持っている

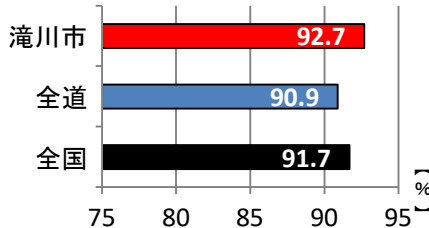
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

人が困っているときは、進んで助けている

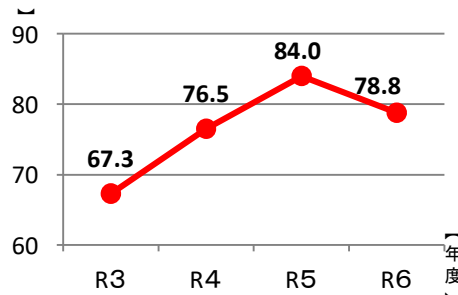
人の役に立つ人間になりたいと思う

【挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況】（児童質問紙より）

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある

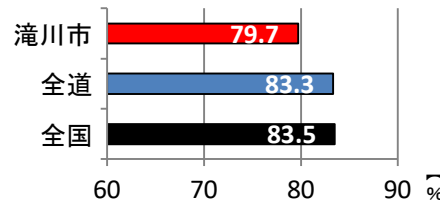


自分には、よいところがある

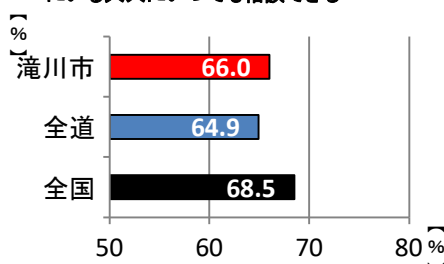


【持続可能な社会の創り手】

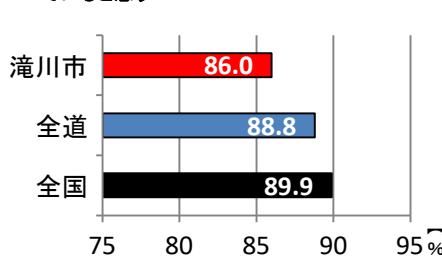
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う



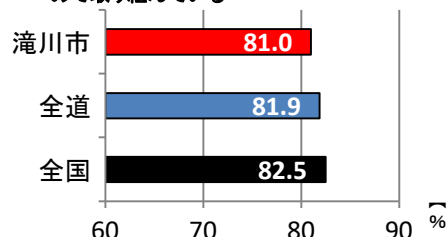
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う



学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる



【分析】

○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した割合は、全国・全道平均を上回っており、各学校においてすべての子どもたちの可能性を引き出す教育が展開され、児童が学びの喜びや成果を感じる経験を重ねることができていると思われる。

○「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合は、昨年度より6.2P下回り、全国・全道の割合を下回った。「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合も、全国・全道の平均を下回っていることから、子どもに寄り添った支援を行う中で、自己肯定感を高めていくことが求められる。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した割合は、全国・全道平均を下回っており、学級活動の充実など「持続可能な社会の創り手」となる人材育成に向けた教育活動の充実が求められる。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した割合は、全道の平均を上回っているものの、全国の平均を下回っている。SOSの出し方に関する教育を推進するなど、援助希求能力の育成を図る必要がある。

【滝川市の改善策】

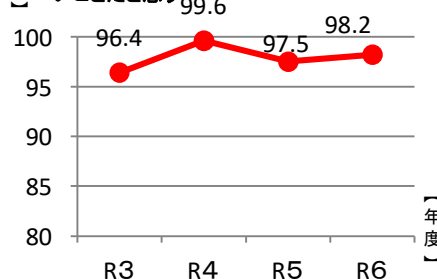
○「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は、全道平均を上回っているが、全国平均を下回っている。特別活動を要とした「キャリアパスポート」の積極的な活用等、小中9年間を見越したキャリア教育の推進を図る。

○自己有用感を高めるために、児童が他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受けとめることができるよう児童が主体的に取り組む協働的な活動を充実させ、子どもたち同士が互いに認め合う雰囲気醸成を図る。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、昨年度より0.7P上回り、98.2%となった。今後も各学校において児童・家庭への啓発活動及び児童による主体的な活動を推進するとともに、子どもたちに道徳性が育まれるよう「特別の教科 道徳」の質的転換を図る。

【いじめへの意識】

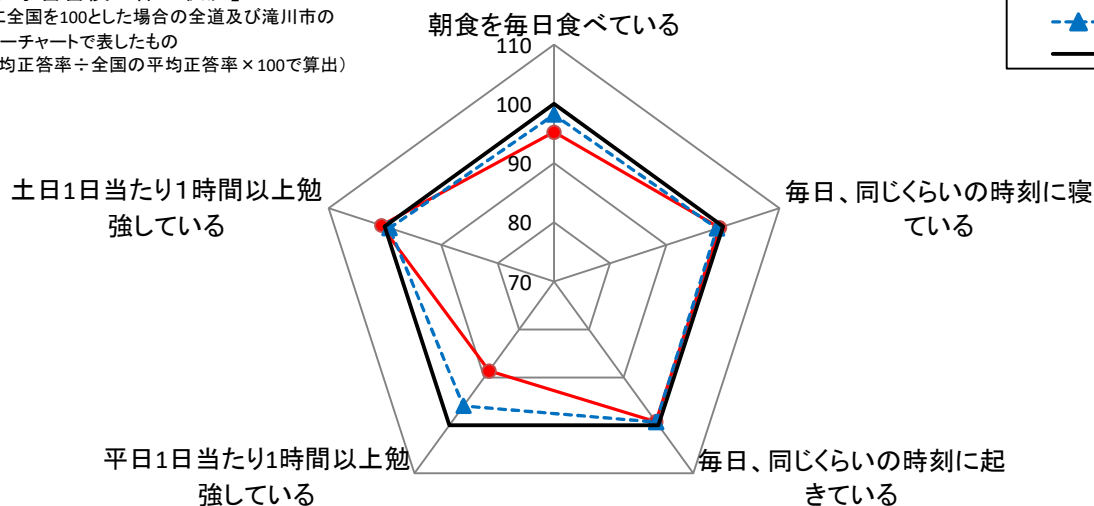
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う



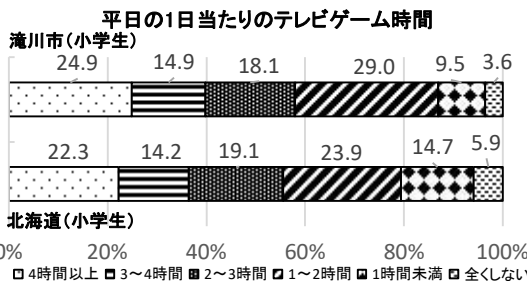
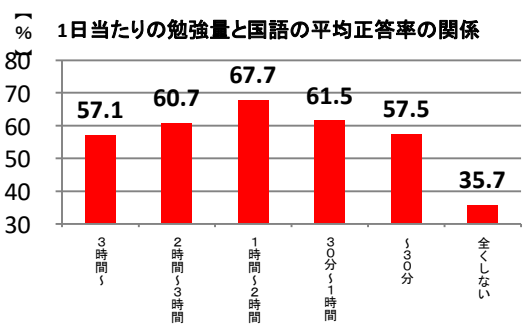
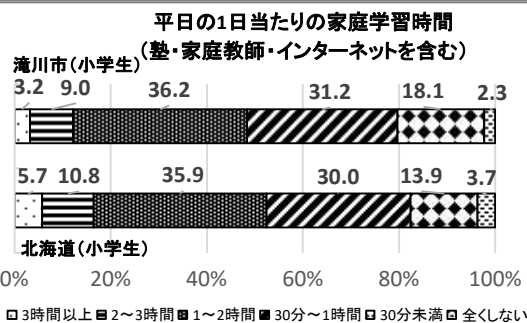
5 滝川市立小学校の学習状況及び改善策（学校数：6校、児童数：231名）

【家庭生活・学習習慣全体の状況】

質問事項別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
 （滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）



【学習時間等】（児童質問紙より）

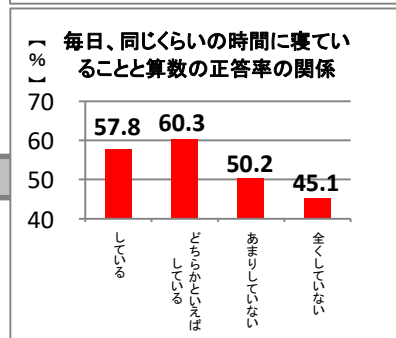
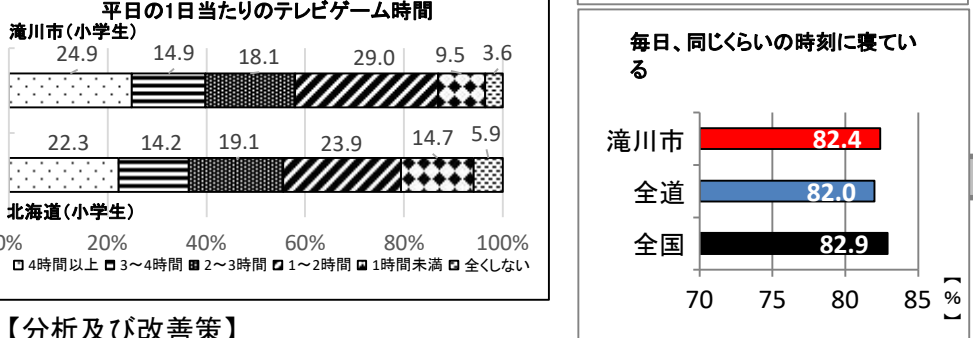
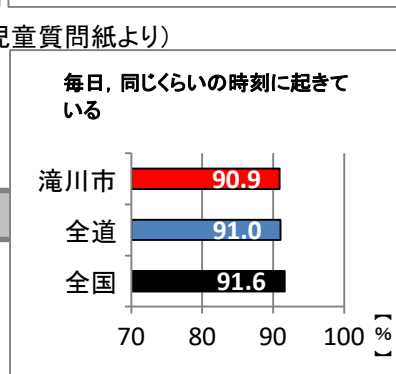
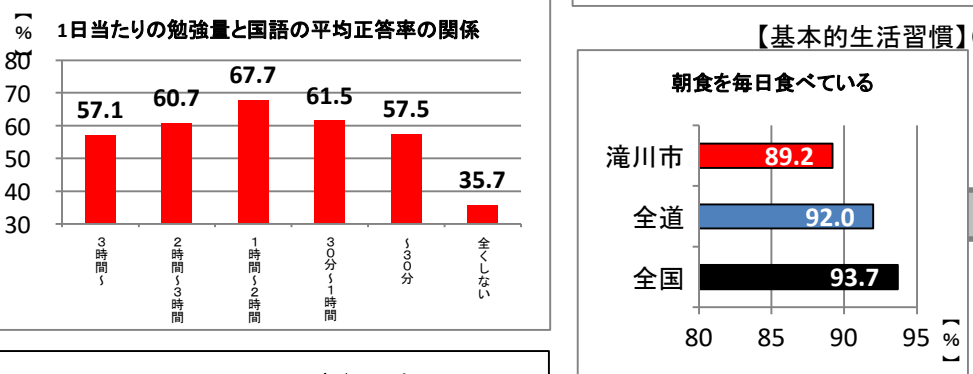
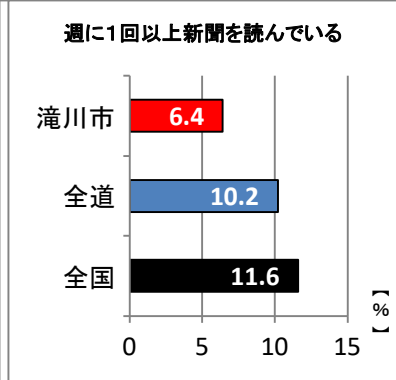
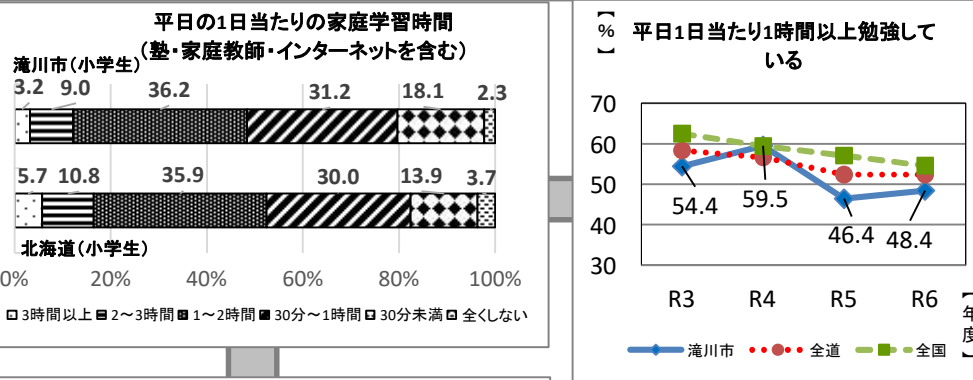


【分析及び改善策】

○「平日1日当たり1時間以上勉強している」と回答した児童の割合は、昨年度を2P上回ったものの、全国・全道の割合を大きく下回っている。1日あたりの勉強量と国語の平均正答率には、相関関係が見られている。また、「平日の1日当たりのテレビゲーム時間」が全道の小学生と比べて長い傾向が見られ、関連性があると思われる。引き続き家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったり、各家庭と連携して推進したりするとともに、学校では生徒に家庭での学習方法等をAIDリルの活用を含め、具体例を挙げながら教えていく。

○「朝食を毎日食べている」と回答した児童の割合は、全国・全道の割合を下回った。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合は、全道の割合を上回ったものの、全国の割合を下回り、そのことと算数の平均正答率には、相関関係が見られている。そのため、望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭と学校が連携する必要がある。

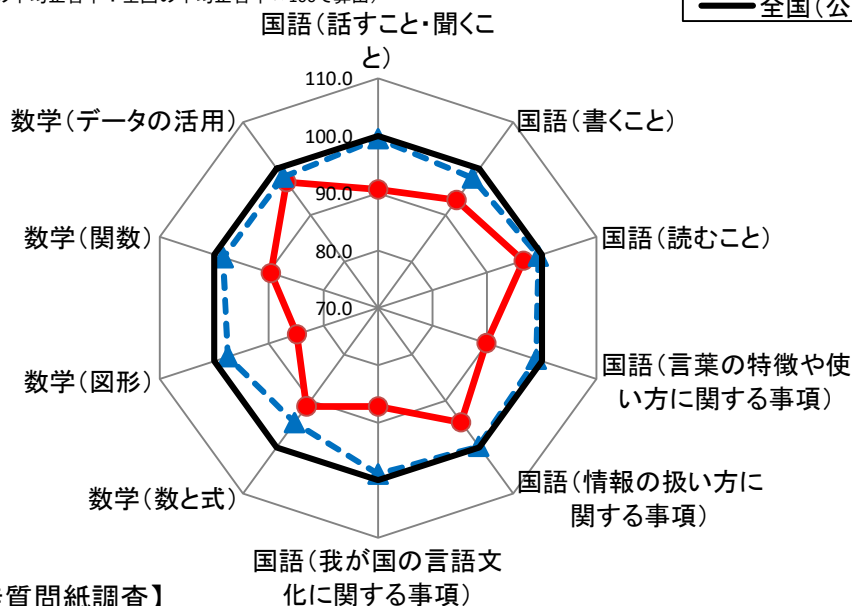
○「週1回以上新聞を読んでいる」と回答した児童の割合は、全国・全道の割合を下回っている。社会に目を向けさせたり、多様な見方や考え方にに基づき、読解力・思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたりするためにも、新聞等を活用した授業等を行うことが求められる。



6 滝川市立中学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：3校、生徒数：284名）

【教科全体の状況】

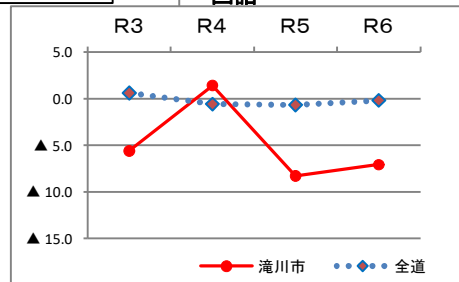
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したものの（滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）



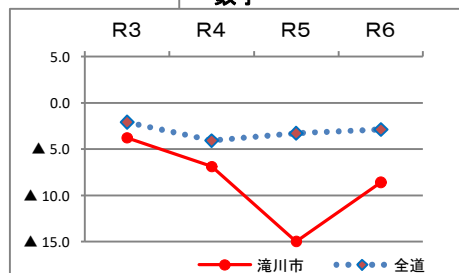
● 滝川市教育委員会
▲ 北海道（公立）
■ 全国（公立）

※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したものの。令和2年度の調査は中止。

国語

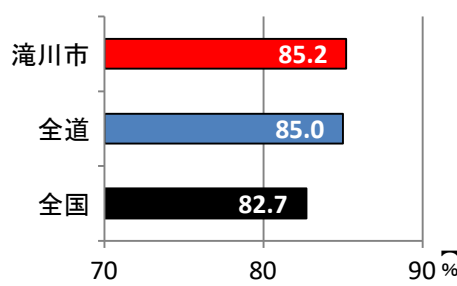


数学

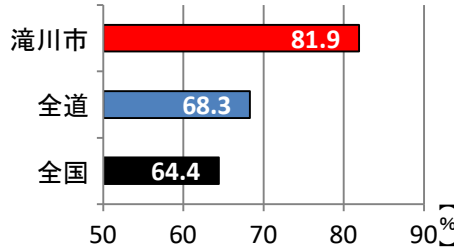


【生徒質問紙調査】

国語の授業の内容はよくわかる

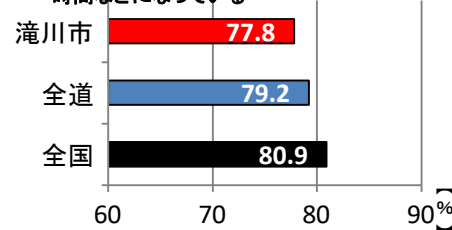


PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している

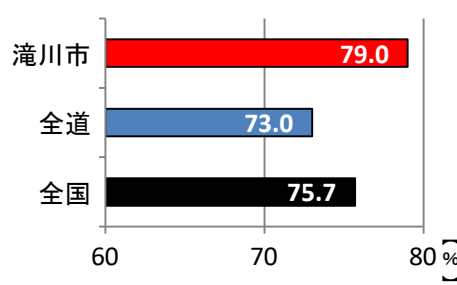


【個別最適な学び】

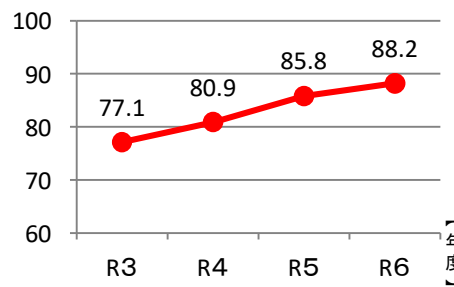
1、2年生のときに受けた授業を受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている



数学の授業の内容はよくわかる

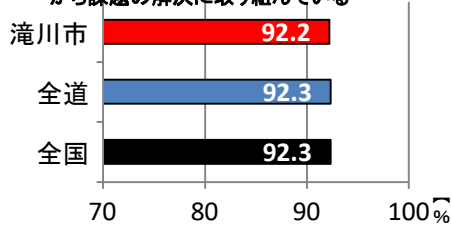


数学の勉強は大切だと思う



【協働的な学び】

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる



【分析】

教科	本市の平均正答率は、国語、数学ともに全国・全道をやや下回った。領域別にみると、数学の「データの活用」は全道の平均正答率と同程度だったものの、国語、数学ともに全て分野において全国・全道の平均正答率を下回った。数学の「図形」は全国・全道との差が25Pと最も大きいことから、指導内容の分析を含めた改善が求められる。	学校は、生徒の姿や地域の現状等に基づき、教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立させた。また、児童の学習状況や課題を全教職員で共有し、学力向上プランの見直しを図りながら、組織的に授業改善に取り組んできた。引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、生徒が自らの学びの変容を見取り、自らの学びの高まりを自覚できるようにすることが大切である。
生徒質問紙	「授業の内容はよくわかる」と回答した割合は、国語・数学ともに全国・全道の平均を上回っている。このことは、生徒の良い点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにした成果と考えられる。「PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」と回答した割合は、全国・全道の平均を大きく上回っており、学校教育の質の向上に向けたICTの活用が各学校で進められていることがわかる。「協働的な学び」に関する項目についての肯定的な回答は全道・全道の平均と同程度だったものの、「個別最適な学び」関係する項目については全国・全道の平均を下回っていることから、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTを効果的に活用した授業改善が求められる。	
学校質問紙	すべての学校において「生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答した。	

【滝川市の学力向上策】

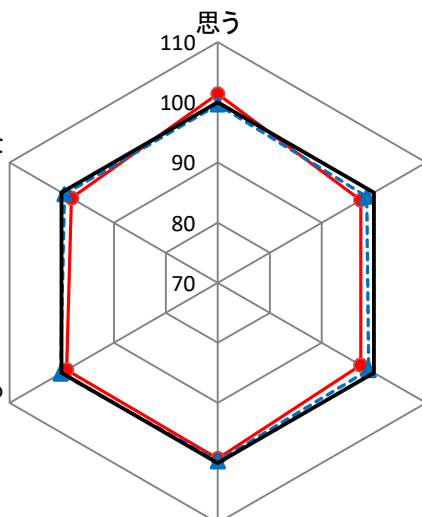
- 児童一人ひとりの理解度に応じて出題される「AIドリル」を活用し、個別最適な学びを一層充実させ、基礎学力の定着と家庭学習の習慣化に取り組んでいる。
- 個に応じた学びの支援のため、退職教員等外部人材活用事業や「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している。
- 学力の二極化を解消するため、チーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、知識や技能を活用する力を育成している。
- 各学校において家庭学習の手引を作成・活用し、望ましい家庭学習の定着に向けた取組を各家庭と連携して推進している。
- 放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補充的・発展的な学習への取組を推進している。
- 小学校における新しいかたちの学びの授業力向上推進事業の取組を参考にした積極的な授業改善を推進している。
- 1人1台端末などのICT機器を効果的に活用するため、教職員研修会を実施し、質の高い授業を目指した授業改善を推進している。

7 滝川市立中学校の学習状況及び改善策（学校数：3校、生徒数：284名）

自分にはよいところがあると思う

普段の生活の中で、幸せな気持ちになる

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



将来の夢や目標を持っている

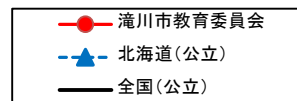
人が困っているときは、進んで助けている

人の役に立つ人間になりたいと思う

【自尊心及び規範意識等全体の状況】

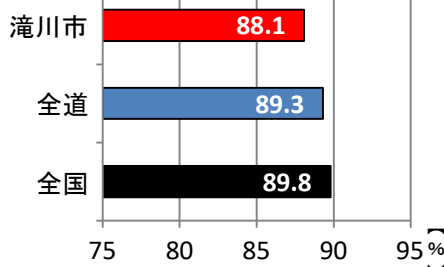
各生徒質問紙項目別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
(滝川市の該当割合÷全国の該当割合×100で算出)

※該当割合＝「当てはまる」割合＋「どちらかといえば当てはまる」割合

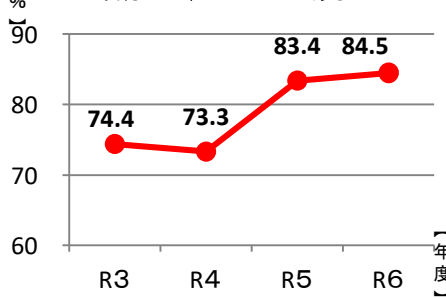


【挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況】(児童質問紙より)

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある

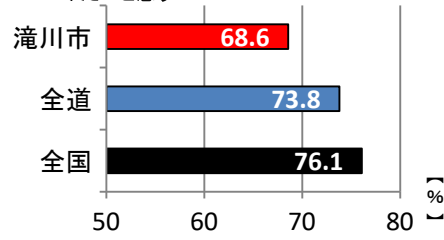


自分には、よいところがある

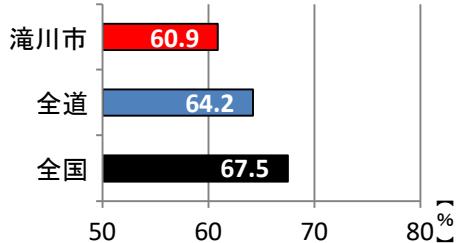


【持続可能な社会の創り手】

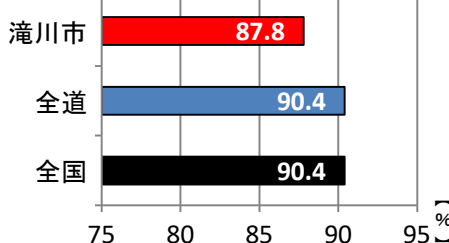
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う



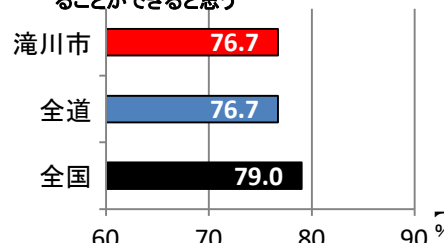
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う

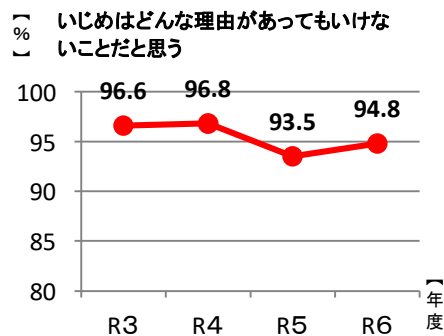


授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う



【分析】

【いじめへの意識】



○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した割合は、全国・全道平均を下回っている。各学校においてすべての子どもたちの可能性を引き出す教育を展開し、生徒が学びの喜びや成果を感じる経験を重ねていくことが求められる。

○自分にはよいところがあると思う」と回答した割合は、昨年度より1.1P上回り、全国・全道平均を上回った。「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答した生徒の割合は、全国・全道の平均を下回っていることから、子どもに寄り添った支援を行う中で、更に自己肯定感を高めることができると考えられる。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した割合は、全国・全道平均を下回っており、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善など「持続可能な社会の創り手」となる人材育成に向けた教育活動の充実が求められる。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した割合は、全国・全道の平均を下回っている。SOSの出し方に関する教育を推進するなど、援助希求能力の育成が図る必要がある。

【滝川市の改善策】

○「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は、全国・全道平均を下回っている。特別活動を要とした「キャリアパスポート」の積極的な活用等、小中9年間を見越したキャリア教育の推進を図る。

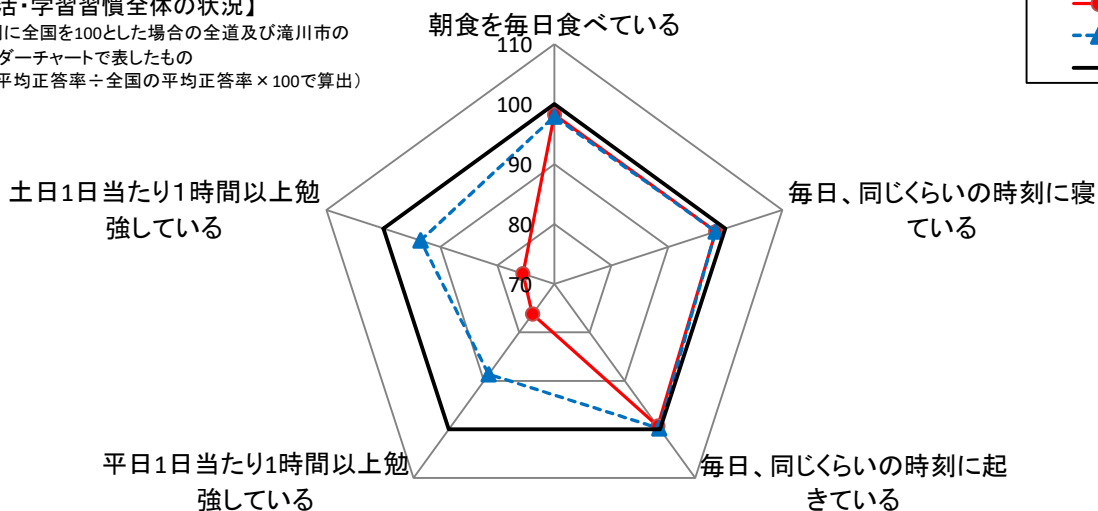
○自己有用感を高めるために、生徒が他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受けとめることができるよう児童が主体的に取り組む協働的な活動を充実させ、子どもたち同士が互いに認め合う雰囲気醸成する。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、昨年度を1.3P上回り、94.8%となった。今後も各学校において児童・家庭への啓発活動及び児童による主体的な活動を推進するとともに、子どもたちに道徳性が育まれるよう「特別の教科 道徳」の質的転換を図る。

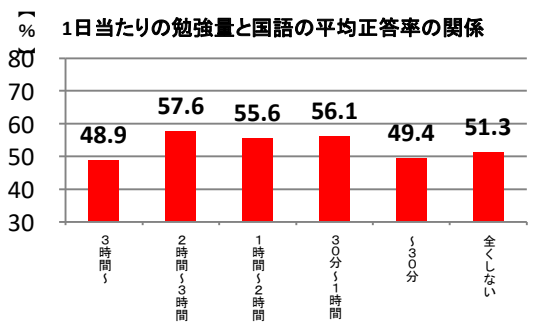
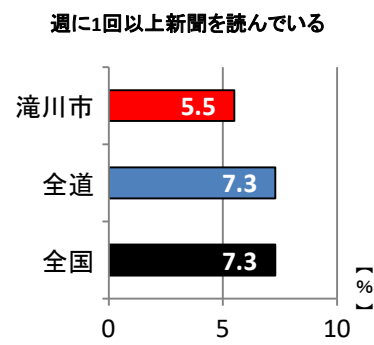
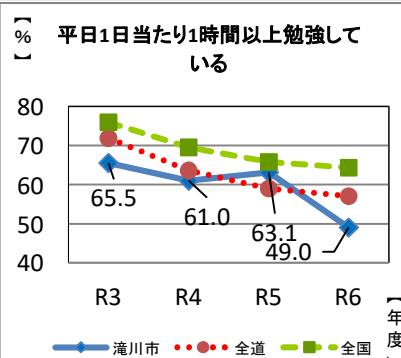
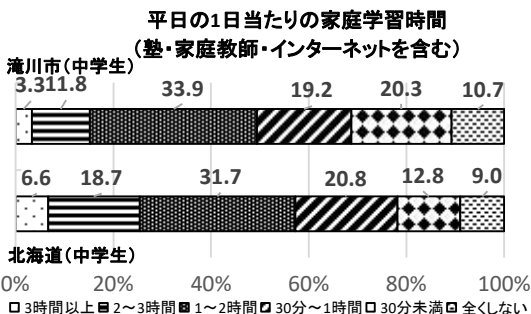
8 滝川市立中学校の学習状況及び改善策(学校数:3校、生徒数:284名)

【家庭生活・学習習慣全体の状況】

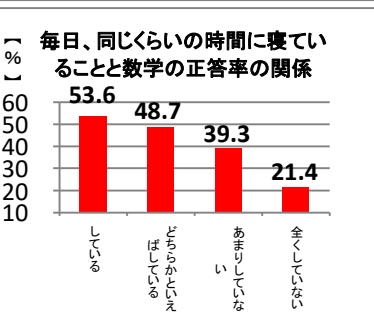
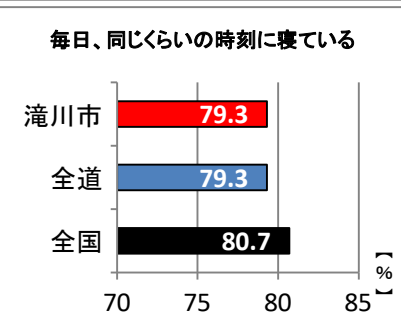
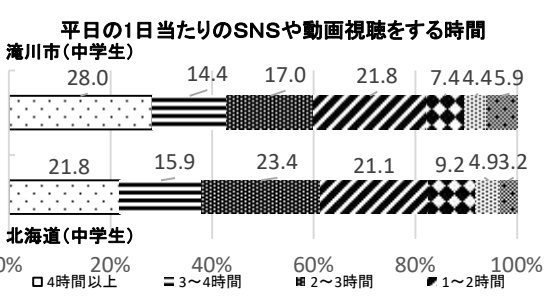
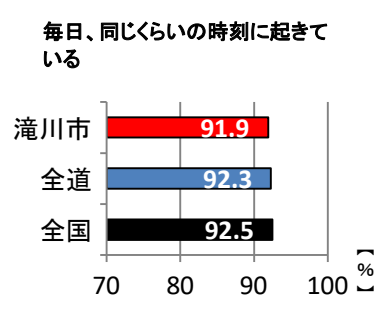
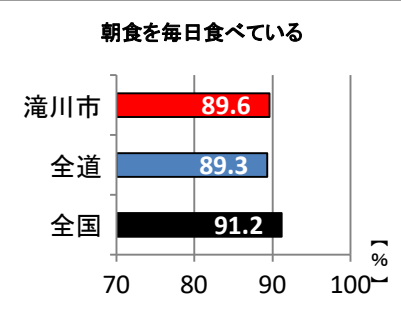
質問事項別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
(滝川市の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【学習時間等】(生徒質問紙より)



【基本的生活習慣】(生徒質問紙より)



【分析及び改善策】

〇「平日1日当たり1時間以上勉強している」と回答した生徒の割合は、昨年度と比べて14.1P下回り、全国・全道の割合を大きく下回っている。1日あたりの勉強量と国語の平均正答率には、相関関係が見られている。また、「平日の1日当たりのSNSや動画視聴をする時間」が全道の中学生と比べて長い傾向が見られ、関連性があると思われる。家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったり、各家庭と連携して推進したりするとともに、学校では生徒に家庭での学習方法等をAIDの活用を含め、具体例を挙げながら教えていく。

〇「朝食を毎日食べている」と回答した生徒の割合は、全道の割合を上回ったものの、全道の割合を下回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した生徒の割合は、全道とは同程度だったものの、全国の割合を下回り、そのことと算数の平均正答率には、相関関係が見られている。そのため、望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭と学校が連携する必要がある。

〇「週1回以上新聞を読んでいる」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回っている。社会に目を向けさせたり、多様な見方や考え方にに基づき、読解力・思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたりするためにも、新聞等を活用した授業等を行うことが求められる。